時事新報

大人ぶる勿れ

君子重からざれば則ち威あらず持重嚴格苟も言笑せず強て其情を制して喜怒を外に現はさゞるは東洋士人の風尙にして我輩の毎度見聞する所なり大變に逢ふて神色自若たるものあり飯を落して顧みざるものなきは或は戰勝の報を聞くも碁を圍んで泰然たるものあり扨て物情を鎭ずるを以て得意とするが故に洒落淡泊人に接して城府を設けず氣輕く其肝膽を披て笑語嬉々然たるものを見れば之を目して輕卒なりと云ひ共に事を謀るに足らずと爲すものもなきにあらず元來人間の交際は遠慮なく心事を談じて其交情の相融和するを貴ぶものなるに憂ふるが如く怒るが如く喪家に居るが如く儒者が經書を講釋するが如く嚴格莊重にして生き〳〵したる情味なく概して所謂大人ぶるの風あるは我輩の取らざる所なり今西洋人と見るに一個人に就ては種々樣々の性質ありと雖も一般に云ふときは洒落にして甚だ氣輕く六尺の大丈夫が兒女の群に入りて相遊戲して談笑し舞踏して其興を催ふす者もあり英米諸國杯にて政治上れ動議又は國會議員撰擧等の事ありて所謂デモンストレーションを爲す時は立派なる紳士が群衆の行列に加はりて靑天白日街頭を乘り廻ることあり又或は群衆の席にて身分重き大人が氣輕くも演壇に飛上りて即席演說を爲すことあり近例を擧ぐれば過日我外務大臣れ夜會に小演劇の催しあり其役人は誰ぞと云ふに外國公使れ夫人もあれば御雇外國人もあり孰れも會の正客とも爲る可き人々なるに思ひ〳〵の技藝を演じて會衆れ歡を添へんとするは氣輕くも又洒落にして爲めに交情の愉快を增そと如何ぞや今日までの處にては是等は日本人の最も不得意なる所にして人あり若し右の役人の一人と爲りて一藝を演じ給へと云はゞ左る兒供らしき事はお斷り申すとて例の嚴格なる句調を以て無下に之を拒絕するとならん我輩は之を評して大人ぶるものなりと云はんと欲するなり

右は擧止行動の外形に就て述べたるものなれども更に一步を進めて心事の働如何を見るに是亦因循極るもの少なからず第一日本人は其所思所感を公にするに懶く現に政事家が政治上に就て其意見を公にすることを憚るは我政治の未だ發達せざるの罪なりとして姑く之を擱くも政治に關係なき社會上の事に就ても容易に所思所感を述ぶる者なきが如し西洋諸國の新聞紙を見るに何か世に事あれば朝野有名の紳士は長短大小に拘はらず思ふ所を人に語り或は自から之を記して新聞紙に投書することあり又何事に由らず新聞紙上にて貴人紳士の言行を評論すれば貴人紳士は筆を執りて其好意を謝するか或は其事を敷延辯報するか或は又之を正誤するか此間の事を爲すに其姓名を公にするを憚ることなきが如し試に英國などの新聞紙を見るべし政治上に在ては何々大臣と云はれ社會交際上にては何々侯伯とも云はるゝ人が何々新聞記者足下の名宛と以て一寸したる事に就ても其所思所感を投書すると往々にして之あり此邊の事は何れにても利害なきに似たれども社會の人々に腹藏なくして時々其意見と知り合へば社會に聲あり色ありて交際上に談話上に頗る都合よきとあるべし蓋し日本人が容易に其所思を筆して之を世に示すとの稀少なるは日本文字の不完全にして英人や佛人が自由に其文を綴り得るが如くなる能はざるの事情もあるべしと雖ども要するに例れ如く大人ぶりて何か奧深く控え込み尋常一般の小事件に就ては默然として苟も言はず言へば必ず長篇大策堂々たる議論を發すべしと觀念するが故に發言の機會甚だ稀にして遂に無言に終る可きのみ士君子の一言小事に對しても每々之を發すときは其世を利すること大なるべし特に今日の世の中は國會開設內地雜居も前座にして社會改良の風上下一般吹き廻り居家處世衣服飲食の微に至るまで萬端改良を要するの機に際會したれば世の士君子は說を爲して世を益する必ずしも長篇大策のみに限らず朝々暮々一寸思付きたる事あれば之を衆に語るとも或は又之を筆して一寸新聞社に投ずるとも其邊の事に何にも見識張るにも及ぶまじ此一點に關しては我輩は天下の士人が簡易率直を旨として重々しく大人ぶらぬ事を希望するものなり

官報

○東京府令第四號

明治十九年度區部共有金臨時支出豫算常置委員會ノ決議ヲ經テ左ノ通相定ム

明治二十年一月二十七日　東京府知事高崎五六

明治十九年度區部共有金臨時支出豫算

一金八千圓　地所家屋買上代

○東京府告示第十二號

海軍兵學校ニ於テ生徒五十五名召募相成候條志願ノ者ハ本年五月十日限リ願出ヘシ

但願出手續等ハ明治十九年五月海軍省令第三十四號海軍生徒召募規則ノ通タルヘシ

明治二十年一月二十七日　東京府知事高崎五六

（以上本年一月二十七日官報）

○十八年全國教育景況（一昨二十六日の續）

書籍館、圖書館　本省所轄の圖書館は從來三箇ありしが本年九月東京敎育博物館の圖書室を閉ち其藏書は總て之を東京圖書館に移せしにより本年末の現數は東京大學圖書館及東京圖書館の二箇となれり而して東京大學圖書館は和漢書一万千五百六十六部、洋書四万八千百九部を藏すと雖も大學の敎員及學生々徒の外は縱覽を許さゞるを以て之を略し左に東京圖書館の概況を記載す

東京圖書館は文庫、閱覽室等皆一時の假用に屬するを以て不便の感なき能はず是を以て本年九月之を東京敎育博物館所在の地に移し又其規則を改定せり茲に其概略を擧ぐれば博物館の藏書を求覽書中に加へたる事、目錄分類法を改めたる事、文庫の新築に着手せし事、求覽料を徵收する事、夜間の閱覽を廢せし事等とす然れども移轉日淺くして益々改良すべきと亦少からず本館圖書の公衆の披閱に供するもの和漢書一万二千八十六部、洋書五千二百廿五部、其他未完本並に雜書の閱覽を許さゞるもの猶ほ數千部あり此他人民委托の和漢書六百卅五部、教育博物館より移せる和漢書四百餘部、洋書千四百六十部ありて亦皆閱覽に供す本年中閱覽人員の總數は七万三千七百七十一名にして前年より減ずると四万千二百十五名、其圖書は二十九万四千五冊にして亦減ずると十八万三千二百八冊あり是本館移轉の際三月間閉館せしと夜間の閱覽を止め又求覽料を徵收せしとに由る然れども移轉後の閱覽人尙ほ一日平均百名に上り皆篤志者のみなるを觀れば本館の公衆に與ふる所の利益亦尠からざるを知るに足れり

書籍館の府縣の所管に屬するものは總計二十三箇にして其藏書は和漢書六万千六百三十一部、洋書一万二百六十三部、閱覽人員四万三千七百六十八名あり今之を前年に比較すれば館數は一箇、書籍は一万三千五百十一部を增し閱覽人は一万九千三十五名を減ぜり

本省所轄東京敎育博物館列品の數は二万千九百十九箇にして前年より增加すると千二百八十七箇あり此增數中其最重なるものは客年英國に於て開設せる萬國衞生博覽會出品と交換せしもの及外國博物館、書肆等より寄贈のものに係り概ね近時の敎育用具及教科書類にして有益のもの甚だ多し就中英國理學巡回敎師所用の器械、濠洲の貝類、英、米二國の書肆より寄贈せる書籍、白耳義國女子職工學校生徒製作品の如きは其最なるものなり此の如く物品の歲月に增加するを以て陳列場中復た餘地を存せず遂に增築の擧あるに至れり又來觀人の數は年々增加の勢ありて本年は十一万二千九百四十四名の多きに上れり

客年十一月以來本館に於て開設せる第一期學術講義は動物、物理の二學科にして本年八月之を卒へ九月より第二期の講義即ち物理、化學の二學科を始めたり此講義たる小學、中學の敎員を集め本館準備の物品等を使用し丁寧に講說せるを以て其益する所蓋し少からざるべし

本年中府縣學校の需に應じ紹介若くは選定せし所の理化學器械及び博物標本の數は四百六十二組其他寄品凡そ四百箇ありて其價一万四千餘圓あり

東京大學理學部博物場は物品二万九千六百二十二箇を藏すと雖も本年は敎員、學生等の參觀に供するに止り外來の閱覽人なし其他府縣所管の敎育博物館は其數三箇ありて物品凡そ四千九百六十三箇を藏し其來觀人は總計九万千七百九十五名あり

公學資　府縣會に於て議定せし本年度地方税中敎育費及區町村敎育補助費（假に函館、沖繩、札幌、根室四縣の國庫補給地方收入金を合算す）は百二十二万二千二百九十圓三十六錢二厘にして地方費總額百分の七強に抵れり之を前年に比較すれば敎育費及補助費に四十一万五千七百六十四圓二十五錢四厘、總額比例に九厘を減ず然れども是會計年度の變更に基因す今其議定額を月數に平分し通常年度に改算すれば前年より增すもの一府二十五縣減ずるもの二府十九縣にして通計八千三百卅四圓十三錢三厘を減ずるに過ぎず又其費目に就きて之を精査するに其減少せしものは補助費にして敎育費は却て六万餘圓を增加す今府縣の申報に據りて補助費を減抑せし理由を案ずるに町村の學事は今日にありて必ずしも地方税を以て補助するを要せず寧ろ之を町村費に委して力を府縣立學校に專にするに如かずと云ふものゝ如し玆に其費目を揭げ以て增減を詳にす（表略）

區町村會に於て議定せし教育費は調査を闕くを以て其多寡增減を詳にするを得ず府縣の申報に由て議事の狀況を案ずるに教育の擴張を計り費額を增加し以て學校內外の準備をなすものなきにあらざれども多くは民力の凋衰を口實として節減を主張し其甚しきは原案に對して全廢又は半減を主張するものあるに至る然れども地方官に於て之を管理するの法ありて幸に既成の規模を廢棄するに至らずと云ふ

府縣公學資收入の總額は千百万六千六百二十九圓六十六錢五厘にして之を前年に比較すれば六十三万五千四百七十五圓十四錢を減少せり之を人口に平均すれば每一人の出す所二十八錢六厘にして前年より二錢を減ず玆に公學資收入科目表を示すと左の如し（表略）

右收入金に就き其種類を概別すれば甲は人民直接の負擔に係るものにして即ち區町村費、地方税とし乙は其他の財源より收入するものにして即ち前年より越高、積金利子、有志寄附金、授業料、雜納金とす甲種に屬するものを合計すれば八百四十九万六千七百四十五圓四十四錢にして前年より十一万三千六百一圓三十四錢九厘を增加す又乙種に屬するものを合計すれば二百五十万九千八百八十四圓二十二錢五厘にして前年より七十四万九千七十六圓四十八錢九厘を減少す今試に十三年以降甲乙兩種に屬する金額を對擧すれば左の如し（表略）

右に據れば甲の增加と乙の減少とは互に反對の關係を有し甲の遞加するに隨ひて乙は亦遞減し甲乙遂に殆んど其半數を增減するに至れり今恒久維持の資本なる蓄積金、授業料等にして年々其額を減じ年の豐凶民力の盛衰に依り時に或は增損する地方税、區町村費にして其額を增し其比例殆んど二と八との如し今にして之が計をなさずんば或は學事の頹廢を來さんことを恐る況んや本年太政官第二十五號を以て區町村費賦課の制限を設けらるゝに於てをや之を未然に防ぐの策は唯蓄積金を增加すると一般に授業料を徵收するの二途あるのみ是本年第七號第八號を以て府縣立及町村立學校に於て授業料を徵收すべき旨を達せし所以なり地方敎育の任に當る者も亦久しく此に注意して蓄積金を增殖するの計畫をなす一にして足らずと雖も奈何せん頻年民力の困弊せる却りて從來の蓄積金を消耗するものありて其目的を達し得ざりし今や第七號第八號達の主旨に準據し既に授業料徵收規則を制定發布するものあり唯其施行日尙ほ淺く本年の授業料總額は僅に四十餘万圓に過ぎざれども一般實施の日に至らば大に其額を增加するに至らん

公學資支出の總額は九百八十六万四千六百二十三圓三十四錢二厘にして之を前年に比較すれば六十一万千四百四十三圓九十六錢三厘を減ず內府縣立學校費に屬するもの百二十九万七千五百八十七圓三十七錢一厘にして之を學校に平均すれば每校六千八百二十九圓四十一錢七厘に抵り之を生徒に平均すれば一人五十三圓五十九錢一厘に抵れり又町村立學校費に屬するものは八百二十九万六千四百五十六圓三十三錢一厘にして之を學校に平均すれば每校二百九十七圓八十五錢五厘に抵り生徒に平均すれば一人二圓七十錢九厘に抵れり玆に十八年公學資支出科目表を示すと左の如し（表略）

右支出の各科目に就きて其增減を詳にし之が理由を探究せんとすれども調査法の改正に由り小學營繕費、敎育會費、書籍器械費の如く專ら一學校に關渉せざるものは其種類に由て之を各費目に分記し旅費、賞與費等は之を雜給に入れたるを以て其前年の比較增減を詳にするを得ず然れども營繕費、書籍器械費に其額を減じ學校長、敎員給に其額を增加するは前年と一轍に出づるが如し而して其全額の減ずると前年の前々年に於ける比例より倍するものは蓋し學務委員の廢止之か主因たるものゝ如し

公立學校の所有品は其價額二千百五十九万千三百九十二圓七十一錢八厘にして之を前年に比較すれば二百三十万四千八百五圓九十五錢四厘を減ず玆に十八年公學所有品價額表を示し以て其增減を詳にす（表略）

右科目に就きて減少の理由を考察するに蓋し家屋價の減少は學校數の減少と物價の低落に伴ふものにして器械價の減少は調査法の改正に由るもの多からん積金の減少に至りては其淵源種々あるべしと雖も二三地方に於て學資蓄積の法を設け學校の獨立維持を計畫するに當り從前の積金中其名ありて實なきものを删除せしもの其主因にして前年の如く特に整理を換へて其日より除却し或は一時の便宜によりて之を消耗せしも亦其一因たるが如し學校所有品は逐年增加し曾て減退せざりしに本年に至り頓に巨額の減少を見るは遺憾とする所なり

本年中府縣人民より寄附せし學資は三十六万六千三百五十一圓十七錢五厘、土地十二万三百十九坪六合三勺、家屋二千二坪二合三勺、書籍一万七千五百五部、器械一万千四百七十箇、雜品價額金二千四百七十六圓六十六錢六厘にして之を寄附せし人員は二十万千三百四十二人なり玆に寄附品數及び人員を種別すれば左の如し（表略）（未完）

雜報

○墺地利國富籤興行の狀況　維納駐在米國總領事エドセンド、ヂヨスセン氏一千八百八十六年の報告中墺國勞働社會の狀況を陳べんが爲先富籤の事を記載せり其言に曰く墺國政府は富籤興行を許せしが爲めに貧民をして賭博心を增長せしめ遽かに巨富を得んとするの空想を增長せしむるは疑ひもなき事實なり故に勞役に從事するものは賃銀を蓄積し漸次小資本を作り出して自己生計の改進を計ることを務めず些少の賃銀を得れば忽ち之を富札に投じ從て投ずれば從て失敗し度々の失敗は却て益賭博心を熾ならしめ時としては老弱男女の別なく婦人は市場に赴きて歸路小錢を背負ひたる僮男子は職工場往來の途次諸道具を手にしたる儘孰れも富札賣捌所に群集するとあり以て勞働社會賭博心の盛なるを知るべし此富籤は番號を以て當籤を定むるものに

旭宇新岡久賴先生書
文部省御檢定濟
小學習字帖

嚶鳴政談演說會
來ル三十日午後一時ヨリ淺草須賀町井生村樓ニ於テ開會
井本常治　丸山名政　角田眞平　久保田與四郎
肥塚龍　波多野傳三郎　田口卯吉　平松福三郎

書家專門　齋藤芳洲
篆隷楷行草ノ諸體其好ニ隨ヒ碑文墓表扁額招牌等ノ揮毫及ヒ書法敎授致候ニ付退還諸君御來訪アレ
日本橋區本両換町五番地